

編集・発行

社会福祉法人

阪神共同福祉会園田苑広報

〒661-0972

尼崎市小中島 1-1-18

TEL:06-6493-3731

Mail:info@sonodaen.or.jp

ホームページ

<http://www.sonodaen.com/>

私たちの目指すもの

一、地域に開かれた施設

二、入居者、家族、施設、地域のみんで作る福祉を！

三、老人と共に生きがいを見い出す生活を！

社会福祉法人阪神共同福祉会園田苑



今年の中秋の名月は9月6日。お月見といえばすすきにお団子。

さっそく団子を作ってもらい、玄関にお供えして写真をパチリ。

夕食後にはきれいな満月を玄関先へ見にいきました。雲のない夜空にまん丸お月様がきれいに輝いていました。



「防波堤を出れば風は吹いてくる」に望みを託して

理事長 中村 大蔵

園田苑の開設記念日である10月12日を迎える度に思い出す。当初は阪神医療生活協同組合で特養を建設運営しようとして準備した。各地で同じような取り組みをした医療生活協同組合や特養を見学に行き、何とかならないかと思案するも、制度の壁は厚かった。

それから26年。特養に株式会社の参入が具体的に検討されるようになってきた。同じ社会福祉法人で運営している保育部門には、すでに株式会社が起業できる時代だから特養も時間の問題か……。

それにしても、園田苑の開設前後は「もうあのしんどさは2度と体験したくない」と言わしめた、難行苦行の連続であった。

だが、「船は港を出るまでが大変。防波堤を出れば風は吹いてくる」との言葉に、望みと期待を託した。

やはり風は吹いてきた。今も吹いている。建設前から今日まで続く医師協組合員、地域住民からの心・金・物の支援や、26周年行事に合わせて、お願いするまでもなく準備に取り組んだボランティアの人たちに感謝の念は堪えない。

「井戸の水を飲む時に、井戸を掘った先人に思いを致せ」との言葉を、開設当初に関わった人たちの多くが他界しているだけに、もう一度心したいものである。

思い立ったが吉日 ～ソフト食のお好み焼きも～



『思い立ったが吉日』の如く開催された敬老の日のお好み焼きパーティー。小型のホットプレート三台、厨房からお借りした大型のホットプレートの四台を使用して、各テーブルで期待して待って下さっている入居者さんの目の前で焼き始めました。

ホットプレート一面に生地を広げた大きなお好み焼き。途中、「叩く派？叩かない派？」等、職員のうちくも有り…(笑)叩かない手法で、ふっくらと焼き上がったお好み焼き。皆さん本当に良く召し上がられました。

山崎副主任の意向でソフト食のお好み焼きも準備されました。皆で同じ物を安心して食べられて嬉しいですね。これからも工夫し企画していき皆さんの笑顔を見たいと思います。

特養3階 ヘルパー 板谷 眞理



「やっぱり、おばーはすごいね」 ～沖縄民謡演奏会～

9月13日に、デイサービスをご利用されている宮城ハナさんのお孫さんとひ孫さんによる沖縄民謡の演奏会がありました。

お孫さんの須永さんは三線の演奏と歌を歌われ、とてもきれいな歌声でした。

ひ孫さん5名は歌や踊りを披露して下さいました。ひ孫さんは小学生から、小学校に満たないような子まで振りをしっかり演じていました。衣装もかわいく、観ていた皆さんの顔も緩んでいき・・・沖縄リズムに覚えのある方々は、気付けば両手が蝶のように舞っておられました。山川さんの手の舞いがきれいで、普段は分からないですが、体に染みついて「沖縄」を感じました。最後にカチャーシーの時になると、皆で舞いました。森さんの息子さんとスパーク！



花束を宮城さんからお孫さんに渡していただくとき、宮城さんの目からキラリと一滴。宮城さんはとても暖かい方で、いつも笑って下さいます。ご家族の皆様も、とても明るく素敵な方ばかりです。「やっぱり、おばーはすごいね！」と感じた1日でした。

宮城さんのご家族の皆様！素敵な時間を有難うございました！

通所介護 主任 秀石 直美



ケアマネにもその人の物語が... ～「園田南」が茶話会主催～

8月19日、尼崎市「園田南」地域包括支援センター独自で、暑気払い茶話会を行いました。

「園田南」包括が独自で茶話会を行うのは、1年ぶりです。新しい顔ぶれが増えていました。3グループ、5名程に分かれて、それぞれに懇談。

1グループは、デイの食事について。あるデイサービスでは週1回、シェフが来て料理を作っており、利用人数に制限がありますが、とても好評との事。「ケアマネも試食したい～」と盛り上がりました。

2グループは、何故ケアマネになったか。それぞれの物語があり人生を考えさせられた内容。

3グループは、仕事のストレスを、どのように発散するか、と個々の話しが弾みました。

その後、中村理事長が参加され、そのだ会について話をされました。6地区同時に出発しましたが、今迄続いているのは、園田地区だけ、との事です。他職種との連携が重要である事を力説されながら、



そのだ会への参加を呼びかけられました。

茶話会がとても好評だった為、今年度内にもう一度行いたいと計画中です。



尼崎市「園田南」地域包括支援センター
主任ケアマネ 熊本 久美子

北海道研修

～私たちも変わる、変わる～

8月20日～8月22日、北海道に研修に行ってきました。

園田苑から、施設長・奥村事務長・中村主任看護師・深津ワーカー・秀石主任・山崎副主任と色んな施設を見学に行ってきました。また、大人数での遠方への研修は初めてで緊張しました。

北海道研修に行くにあたって、まだまだユニットの良さ・楽しさやユニットの深さや空間作りをどう作れば良いのか、少しでも色んな施設を見る事で「貴重な体験や刺激を受ける機会になればいいな。」と思いその日がやってきました。



美瑛にある特別養護老人ホーム慈光園・介護老人保健施設ほの香、そして上士幌にある特別養護老人ホーム上士幌すずらん荘で、現状で困っている事や、どのような育成の指導をしているかなどを意見交換しました。

業務の流れなどは、その日の早番がタイムスケジュールを組む予定のたて方をされている所や、新人を支えるのは教育係がおり、いろんな事を主任や施設長にも報告し新人にアプローチされている。「ほの香」では、個別ケアを重視している為ケアの共有が不可欠であるが、新人スタッフの教育状況を把握できずそのまま独り立ちしてしまっただけではケアの共有以前に質を高める事が出来ず、事故などに繋がる可能性が高い。こうしたデメリットを克服するために「プリセプター」の導入をされている。

通常のプリセプターシップを導入するには人材が少ない為、各業務考慮し委員会のスタッフにも入り適切な人材に望ましいと考えられている。



上記の施設と育成や・空間作り・業務の流れでは、どの施設も悩んでいる事や困っている事は一緒な所が多かったですが、育成の仕方や新人の関わりには常にフォローや悩みを聞いてあげる環境を重視されているように感じた。私たちは、1か月経つと研修期間が終わり、独り立ちと言う環境の中で、業務に追われがちでまだまだ不安要素を抱

えている職員に耳を傾ける時間や話しかけるタイミングを取れなく過ごしてきたな。と実感しました。

すずらん荘では、空間作りが考えられていて、施設内が家具・植物などがたくさんあり、温もりやアットホームな居場所を感じた。くつろぐ場所兼食堂には、広い空間ではないが、テーブルやソファ・棚等生活用品がたくさん置かれていた。



ごちゃごちゃ感はなく、入居者一人一人の役割や趣味、くつろぐスペースで過ごされている。長い廊下には、ラティス・のれんを使用し生活感が溢れており、死角にならないようレースにされたりと工夫されている。テレビの音や照明にもいろんな角度や場所を考え音の漏れなど感じさせない不思議な空間で出来そうと思っていたが、仕組みがしっかり考えられていて「すごい」と思うばかりでした。

食事に関しても、「食べたい時に食べる」ゆとりある風景。配膳の仕方・厨房から来る台車の置き方



にも工夫あり。手間が少ない。食事の時間も慌ただしくない。園田苑とは違う。入居者が揃ってからでない配膳もしない。すぐに食事介助入れないのに起きて待たしてしまい職員の都合で生活している。まず、配膳の仕方を変えてみました。お膳が来たら、味噌汁・ご飯を乗せ、テーブルに食事を並べてお盆は取っている。家での生活風景のようにしている。

食事の時間にゆとりが出来る様、食事介助の必要な方には、日々の様子や食事の様子を敏感に気付くよう早出しを作り、17:30より食事を初めている。

個々の居場所や生活空間を居室担当中心に考えて個別ケアがまだまだ進んでないのが現状ですが、新人職員も多く入り、生活・環境・入居者の思いを聞いて、最後の抛り所は特養であれば「来てよかった。」と言って頂ける園田苑になるように考えていきたいです。



特養2階リーダー 山田 理恵

東北被災施設訪問研修報告第2弾 ～赤井江マリンホーム～

東日本大震災が発生して、3年がたち、私は初めて仙台空港に降りました。不謹慎ですが、私にとっては、特に変わったことのない空港の風景、七夕の飾りが揺れて、TV等で流れた津波の映像は、想像が付きません。

でも、ここから車で移動すると、大きく風景は変わっていったのです。道路は整備され、がれきも撤去され、一見何が違うのだろうと感じのですが、ガードレールが大きいたわみ、大型ダンプがひっきりなしに走り去る。そして、草むらがずっと広がっていたのです。本当は屋根が重なり、家が建ち、人々の生活があったであろう場所に、その基礎だけを残し、夏草がどこまでも生い茂っていました。

「杜の都・仙台」は、大きな道路と緑におおわれた都会です。県庁の玄関にも七夕飾りが吊るされ、みんなが祭を心待ちにしているよう。



私たち一行は、その中の会議室で、被災しながらも、全員無事に避難した特養「赤井江マリンホーム」の話を聞きました。

前号でも登場した「うらやす」と同じように、停電し、携帯ラジオが見つからず、経験したことのない大きな揺れで混乱したようです。でも、地



春園苑阿部苑長
から説明を受ける

震直後に、移送用に準備した車の「カーラジオ」をつけ、情報を集めた事、1年前の、チリ地震の津波の避難指示の教訓が、その後の全員無事に避難出来た事に大きくつながったようです。このチリ地震の経験については、どこの施設もが、「この時の経験が生かされた」と口をそろえます。経験をする事がやはり大きいのです。

「6メートルの津波が来る」の情報を聞き漏らさず、「仙台空港」へ避難しようと決断した事。なぜ仙台空港だったのか？施設からの距離と規模の大きさが決め手のようですが、後から考えると、その時の「勢い」で移動を決断したよう。でもその判断が正しかった。

日頃の備蓄品の整備、火災訓練や防災の知識は必要で、いざという時に生かされます。災害のマニュアルは作らないといけない。ただ、作ったと



宮城県庁にて

ここで、想定通り発生するものではないのです。実際の対応は、その場に居る管理職と職員が、今までの知識や経験をいかに生かして、臨機応変に動き、対応し、強いリーダーシップで、早い決断がくだせるかが決め手なのです。

現在、この地震を経験した職員が減ってきている事が大きな悩みだとの事。震災を知らない職員が増え、今後どのように語りついで、経験を生かしていけるのか。職員の育成が大きな課題だと言う。この点では、他の施設の方々も同様の事を話します。色々なハード面（備蓄品や施設の改修）



等は比較的準備しやすいでしょう。でもやっぱり「職員」の育成が一番。緊急時にすばやく柔軟に対応でき、的確に判断できる職員をどう育成するのか？このような大きな災害を経験すればするほど、痛切に思うようです。でもこの問題は私たち、介護職全体の問題でもあるのです。大きな課題を突き付けられ、「やっぱり、そこなのかー」と頭を抱えながら、県庁を後にしました。

支援センター センター長 物部 幸代

ホームヘルパーにこぼした言葉に… ～ショートステイ奮闘記③～

竹之内タネさんは、園田苑1階にあるデイサービスをご利用されてきました。本人から「私もショートステイを使いたいねんけど」と相談されたのは今年の1月。早速2月から利用が始まりました。初めてのショートステイの後、タネさんに感想をうかがいました。

「どうでしたか3階は?」「まあこんなもんなんかな。住んではる人のお手伝いで、職員さんもしそがしそうやわ。」とのこと。デイサービスと比較すると、楽しむ場所ではなく、生活をする場所ということには分かってはいるけど、そのギャップに我慢し、頑張っている感じを受けました。

「タネさんはどうしてショートステイを利用したいん?」と聞くと、「そりゃ実績作りよ。家で面倒みてくれる弟に迷惑かけられへんし、いつかは園田苑に入りたい。」とのこと。利用者さん自ら自分の将来を見据え、介護疲れしてきた弟さんのことを考えての決断でした。



今までの園田苑ショートステイは、在宅で介護をされている御家族の介護負担や介護疲れを軽減する為に利用されていた方が大半です。もちろんそれもととても大切な目的です。でも実際利用してくださる利用者さんの目的は?せつかく園田苑を選んでもらい、デイサービスとの連携に取り組んでいるショートステイとして、何か持って帰ってもらえるもの(気持ちの変化や成果など)が渡せないか?そういう思いで胸が苦しくなりました。

月に数日のショートステイを何か月か我慢して利用していたタネさんから、ショートステイでの悩みを聞いてきてくれたのは園田苑から派遣されているホームヘルパーでした。

“トイレに行きたくても職員さんが来てくれない”“私は車椅子がこげないし歩けないから”“家みたいにベッドの横に簡易トイレがあったら行けるのに”“でもせつかくだから部屋で閉じこもりたくない”デイサービスやショートステイの職員には遠慮して、ホームヘルパーにこぼされた言葉。。。



早速皆で話し合いました。“家と施設は別だけど、施設だからこそできる、タネさんの自立した生活が作れないかな?”“タネさんは車椅子がこげないの?”“それは家の中の狭いスペースだからで、タネさんのADL だったらこぐ練習ができると思う!”“デイサービスでは歩行運動はしてきたけど、車椅子をこぐ練習が自宅に必要と考えてなかった!”

“でもこぐ練習は園田苑でもっと自由に生活してもらうために意味があると思う!”

話し合い後のショートステイの日、タネさんに説明をし、家用の車椅子から自走式の車椅子に乗り換えてもらい、早速練習です。「まがるのが難しいな。」「これやったらトイレにも向かえるし、皆にちょっとでも迷惑かけんでええわ。」真剣に操作し、ととても良い笑顔で答えてくれました。ホームヘルプ

とデイサービスとショートステイの皆が連携をし、タネさんの園田苑での生活を少しでも自由にできたこと、小さな1歩ですが、一人の利用者と向き合うことで、3セクション同士も向き合うことができた、とても意味のある、そんな物語でした。タネさん、ありがとうございました。

タネさんは今日もデイサービスで、ショートステイで、皆に「上手になってる～」と言われどや顔で園田苑内をこぐのでした。 →次号へ続く。

通所介護/短期入居生活介護
生活相談員 深津 智子



夏祭り 地域の方もぞくぞくと ～あでやか浴衣姿～



8月23日、園田苑恒例の夏祭りが開催されました。

今年はかき氷、ヨーヨー釣りなどの模擬店が8つも出店しました。また琴の演奏、ウクレレ演奏、和太鼓などのイベントもいつも通り行われました。事務所には広島県豪雨災害の募金箱が置かれ、皆さんに協力を呼びかけました。

午後6時、施設長の挨拶にて夏祭りがスタート、6時15分にはお琴の演奏からイベントが始まりました。入居者さんは自分の好きな食べ物の模擬店に行き、嬉しそうに注文されていました。6時半ごろからははっきりしない天候にもかかわらず、地域の方々も続々と苑にやって来られました。



琴、和太鼓、ウクレレの演奏、盆踊りなどイベントも大いに盛り上がり、皆さん楽しんで下さいました。最後は花火で締めくくりです。初の試みのナイアガラ花火はいかがでしたでしょうか？遠くに見えた伊丹の花火大会よりもきれいだったのではないのでしょうか？(笑)

去年は雨模様でお客さんが少なかったのですが、今年はたくさんの方が来られ、金券も飛ぶように売れていきました。

また来年もたくさんの方々に来ていただけたらと思います。ありがとうございました。

通所介護 奥島 崇



はじめての外出 ～うんちくも飛び出しワキアイアイ～

私が特養に配属されて初めての入居者さんとの外出は、保坂稔さんと杠葉武則さんの敬老会でした。

9月12日、善法寺保育園にご招待を受けて敬老会に行くことになりました。初めはあまり乗り気ではなかった様子の保坂さんでしたが、保育園に着き園児達を見た途端、ばあっと素晴らしい笑顔を見せてくださいました。

敬老会は最初に園児達が歌を歌ってくれました。その間もお二人はずっと園児達をにこにこしながら見ておられました。

歌が終わると園児たちはけん玉やコマなどをしていました。お二人は園児に折り紙で作った鶴をもらっていました。帰る際には名前が入ったメダルと花をプレゼントされとても喜んでおられました。

帰りに「楽しかった。」と言われ私もとても嬉しかったです。また時間があればどこかへお出掛けに行けたらと思います。

特養2階 山之内 和宏



パワフルでとても良い風土 ～法人接遇研修～

園田苑では毎年全職員会議で「接遇」を取り上げてきました。

県の接遇研修に出席した者が講師となり、研修を行ってきました。

今年は、同法人の保育でも、是非「接遇研修」をやりたいとの声もあり、法人研修として取り上げることとなりました。

法人全体となると、ほぼ 150 名からの数になります。場所然り、時間然り、高齢者と保育との違い然り、そして講師は・・・色々な問題が出てきました。

そこで、頭をよぎったのが、今回お迎えした濱島しのぶ先生でした。

もう2年くらい前のことです。



阪神ブロック施設長会主催の「接遇研修」が尼崎であると聞き、真野事務次長、板谷ヘルパーらを数名引き連れ参加をしました。

ご自身は、キャビンアテンダントをされて、特養の施設長も経験するという経歴をお持ちで、その部分だけでも、興味をそそられたことは確かです。

でも、実際に講義を受けると、流れのある講義で、おもしろくて、あっという間に時間が過ぎました。一緒に参加していた職員の評判も良かったことを記憶しています。

そして、今回、9月4日土曜日、トマス大学中講義室をお借りし、保育を午後、高齢者を夜と時間帯を分けて1日で2回の講義をしていただくことになりました。

何度か連絡をさせていただいている中で、「保育への研修ははじめてなので、家の近くの保育園に忍び込んでしっかりと下準備しま

す」とのメッセージには、プロ意識を感じました。

昼の保育の部では、比較的年齢層の若い職員が多く、濱島先生からのジェスチャー指示に全身を使った軽やかな動きが目立ちました。う～ん、高齢者部門は、こんな動きできるのかな？と若干不安が脳裏をよぎりました。

勤務の関係で昼の部に参加したグループハウスの笠松ヘルパーは、入ってきた時は、「えー、グループワークか・・・」と沈んだ表情でしたが、終わってから先生に居残り質問まで行い、「なかなか良かったわ」と満面の笑みを称えて帰っていきました。

市榮常務理事も、「保育では、こういう

形の研修は初めてだったから楽しかったわ」と喜んでくださいました。

夜の部では、突然の大雨に開始時間が少しずれこみましたが、昼間の心配もなんのその、教室中に大きな声や笑い声が響き渡りました。

昼と夜の間にも、善法寺保育園や園田苑にも立ち寄っていただきました。

そこでは、2ヶ所気になったところがありましたけどどの指摘も受けました。

「研修も活気があり、パワフルでとても良い風土をそだてていらっしゃると感じました。『車いすクリーン月間』は進んでいますか？楽しみです。」と後日お葉書をいただきました。

「接遇ができている施設の共通点の一つは、共同で使うものの整理整頓ができていることである。次に使う人への配慮ができている証拠であり、決められたことは守る風土もできている。よって、何をしても浸透度が高い。」と先生は言われています。

今始めたひとつひとつの取り組みを浸透させていきたいと思えます。

ちなみに「車いすクリーン月間」は、一定の成果を得たことをご報告しておきます。

施設長 田中 千賀子



祝 敬老・神崎北団地

～カラオケにはじまりカラオケで終わる～

9月21日神崎北団地自治会主催の敬老会に、施設長とLSAが今年度もご招待いただきました。

これは、本当に嬉しいことです。復興住宅の中には、いまだに自治会とLSAが連携せず、自治会がどんな行事をしているか、LSAがどんな仕事をしているかわからないという住宅もあります。また逆に園田苑の周年行事の際には、神崎北団地の自治会の役員さんが、お祝い持参でご出席をくださります。



地域サポート型特養の担当者として、今後、他の地域でもこういった持ちつ持たれつの関係を少しずつ築いていけたらと思います。

園田苑 三浦 佳幸



小中島地区高齢者見守り安心委員会事務局会議に参加して ～新たな関係の構築を担う～



9月4日 小中島地区高齢者見守り安心委員会事務局会議にて、「地域サポート型特養」の事業説明をさせて頂きました。今回説明させて頂く上で、すでに行われている小中島地区の高齢者見守り活動との連携を意識しました。

「地域サポート型特養」の事業が、小中島地区の高齢者見守り活動にとってかわるのではなく、それぞれの活動での情報を共有することが、見守りが必要な方や認知症の方が地域で安心して暮らし続けるための一つの要因になり、今までの関係を維持しつつ新たな関係を築いていくための一役を担えればと思っています。

その中で園田苑がこの「地域サポート型特養」の事業を通して住み慣れた小中島地区で少しでも安心して過ごして頂くためにできることは何か。現在行われている地域での活動と園田苑での事業がそれぞれ別々に活動するのではなく、しっかりと地域の情報を共有し協働していく事で、「地域サポート型特養」の事業での“安否確認”の連絡や訪問だけに留まらず、この小中島地域にある社会資源へとつなげていく事を目標と考え、『小中島に住んで良かった』と思ってもらえるように貢献していきたいと思います。

特養 生活相談員 大上 茂利

つづれ草紙

北海道の安永さんから黄色と白色2種類のトウモロコシが1箱届きました。

「うわ～きれいなトウモロコシやね！きっとおいしいで～」と中西ハマ子さん。

「こんだけあったら皮剥くん大変やわ。」と言うと、「もっておいでみんなでやったらすぐ終わる。」と光本貞淑さん、川西八重子さん。

ほんとうにあっという間に作業は終わり、甘くてやわらかいトウモロコシを入居者、職員みんなでいただきました。



避難訓練

～センター職員が一丸となって～

9月1日の防災の日、支援センター園田苑で、火災の発生に備えた避難訓練を実施しました。センターでの非常時には、認知症対応型デイの利用者12名の安全確保が第一となり、デイだけではなく、地域包括、居宅介護支援、訪問介護、厨房、事務の職員が一丸となり、迅速で、臨機応変な対応が重要となります。



利用者への事前説明では、昨今の自然災害の恐ろしさをよく理解されているためか、「訓練は、やっといた方がええわな。」というお言葉もあり、皆さん訓練に協力的で、避難は5分程度でスムーズに完了しました。

今回は、事前の計画に基づいた訓練だったため、落ち着いて行動できました。しかし、非常事態はいつ、どんな状況で起こるか分からない上に、利用者の大きなパニックも予想されます。また、センターでは、他セクションとの協力が必要不可欠となるため、今回は訓練前の設備等の再確認および、職員を対象にした防火意識の向上に向けた防災教育にも時間を割きました。今回見えた課題を解決しつつ、災害時には、出来る限り冷静な行動がとれるように、備えを整えていきたいと思えます。

認知症対応型通所介護 生活相談員 関口 義信



～園田苑からのお知らせ～

11月29日(土)フラダンス:2013年5月にも園田苑に来てくださったフラダンスグループ。尼崎を中心に老人ホームや病院で活躍されているグループです。14時～2階食堂にて。

NEW 園田苑のホームページが完成しました！ **NEW**

苑の取り組みや事業内容が分かりやすく掲載されています。是非一度ご覧ください！

園田苑のホームページアドレス→→→<http://www.sonodaen.com/>



編集後記

自宅から見えている休耕田にコスモスが少しずつ咲いていっています。畑に囲まれているので虫も多いけど出て3秒で季節の変化が感じられるのは嬉しいことです。(きりん)

恒例のそうめん流しが今年も盛大に終了し、夏の終わりを告げました。

3年前、デイサービスに異動になりたてでそうめん流しの企画を出し、誰にSOSを出していいかもわからない中、気付けばボランティアさんに泣きついていました。

当日にお電話したにもかかわらず、昼前には集まってくださり、天ぶらをあげてくださった。

「私達が元気もらうんやで」

「3年前は竹2本やったね。利用者が増えて竹も4本になったね。」

「用事の合間見てきたからもう行くわな。」(酒浴女)

あれから毎年。この御縁に報いたい。できる事、苦手なことは素直に周りに助けを求められる人になろう。

できる事はさらに磨きをかけて周りに協力しようそんななんでもないことだけど、とても難しい。(きんたろう)

24時間サポート特養が始まって1ヶ月半。現時点で5名の利用者。

私は上出来だと思っているが、担当者は、心中穏やかではないらしく利用者を増やそうとやっきになっている。ぼちぼちやりましょう。

それにしても、夜中の一時過ぎにメール音が鳴り、うわく、何が起こったと飛び起きたが、「もうすぐ充電が切れます」には、笑うしかなかった。

今のところ家に行かなければいけないようなことは起こっていない。(野の花)